



副議長  
総務産業常任委員

## 境田敏高

### 境田「わが町にも待機児童は？」 町長「年度途中からいる」

**Q** 今、全国的に保育施設に入れなくて困っている待機児童が増えてきている。南関町にも待機児童がいると聞いた。安心して産み育てるには、保育園の入所も大事である。

地方創生に取り組んでいるわが町にとって、大きな課題である。

そこで、近年の入所数と待機児童の現状を尋ねる。

**A (福祉課長)** 入所数は平成27年4月1日が308人、平成28年度が323人、平成29年度338人となっている。待機児童は年度末、最後の3月1日の人数は平成26年3月1日で8人、平成27年3月で9人、平成28年3月で3人、平成29年3月で4人、平成30年3月で3人となっている。

**Q** 待機児童に計算されない、隠れ待機児童の数が多くなっている。

隠れ児童の数は待機児童の3倍程度といわれている。保育施設に申し込みをしない児童は、待機児童に含まれないが、町の待機児童に含まれない児童数を尋ねる。

**A (福祉課長)** 保育所等に入所していない児童は、家庭内保育世帯応援金、そちらに該当する児童として把握をしている。その他の児童につきましては、育児休業中などであるため、待機児童については、ほぼ網羅している。その他の隠れ待機児童ということで、いらっしゃるのであれば、すべてを把握しているという状況ではない。

**Q** わが町の子どもが町内にある保育施設に占める割合を尋ねる。

**A (福祉課長)** 南関こどもの丘保育園の園児数が今242人で、うち町内児童が236人、97.5%である。ひまわり幼稚園は認定こども

園であるが、141人中57人、ここは幼稚園があるので40.4%で、文化幼稚園も認定こども園であるが46人園児がいる。

町内の園児は45人、97.8%である。

**Q** 待機児童の原因は何か。保育所から保育士がいない、確保できないとのことであったが、保育士はいる。町は4つの保育園を運営されていた。町には保育園経営のノウハウがあると思うので、本当に人が足りない場合、携わっていた職員を派遣するとかの考えはないか。

**A (町長)** 職員を民間の保育所に出向で出すことは今考えにくい。

**Q** 荒尾市では、待機児童解消を図るため、今年4月から市内に住む新規採用者の保育士に家賃半額補助、上限は2万5,000円であるが、この事業が始まる。わが町は民営化になっているが、定住促進からの面からもこのような事業はできないか。

**A (町長)** 確かに保育士ということで子育て支援には大事かもしれない。現在は子育て支援・介護の面でも働く方が少ないので、保育士に限らず子どもから高齢者までが安心して暮らせる環境の整備ということであれば、全体的な年代を含めたところで検討する必要はある。

**まとめ** 待機児童問題は、わが町にとって本当に大きな課題である。子どもたち自身の成長にとっても重要である。教育は、乳児からでも平等であるべきである。一人の待機児童も出ないように取り組むべきである。



西田「第二校区の定住促進について」  
町長「民間の力を活用していきたい」



文教厚生常任委員  
広報常任副委員長

西田恵介

**Q** 町長・町議選挙の投票者数と率について。また、今後の小中学校の児童生徒数が減少しているが平等に学習できているのか。特に二小が減少傾向にあるが町としてどのような対策を考えているか。

**A** (町長) 今回の選挙に限らず、管内でも5%程度低い。全国的な課題である。また高校閉校に伴い、新たな有権者への啓発が困難な状態であるが、防災無線、広報なんかん等で啓発していく。児童生徒数については、5年後は現在の390名と比べ、小学校では10%ほど増加する見込みで、中学校では現在の210名から横ばいを見込まれる。二小については、減少することが予想されるが、学習面については、各小学校で格差が生じないよう創意工夫した対策を講る。

**Q** 投票率が20代から34歳まで50%を切り、町政に対して若い方の意見が反映しにくい現状が考えられる。選挙期間も平日であり、若い方が家にいない時間が運動期間となっているので、この点についてはどう考えているか、広報関係も含めて質問する。

**A** (総務課長) 選挙公報も配っており、直接面談して話しができればいいが、限られた条件の中で一生懸命頑張ってきたと思う。投票率は不在者投票ではなく、期日前投票になり、条件的にも緩く活用してもらうように努める。

**Q** この課題は本町のみでなく、全国的な政治離れにつながるので、メディア等も含めて対策を検討していただきたい。二小は、今後複式学級になり、3クラスの可能性もある。二小だけ極端にこれだけ落ちているということは、不平等を感じる。団地や、アパート、宅地の整備を町として出来ないのか尋ねる。

**A** (町長) 宅地の整備は、第三校区に整備しているが、検討の段階で町有地を活用し、その不足する部分を民間の用地で検討してきた。もう一つの候補地が第二保育園跡地あった。その段階で、学校側の要望で実現できなかった。民間の動

きも活発であるので、民間の力を視野に入れながら、第二校区でもできればと考えている。

**Q** 第二校区で、活発な動きというのは見えない。町がきっかけづくりをすることが必要だと思う。まちづくりの中で移住していただくこともありが、やはり地域に残っている方がそのまま地域に住むことも大事なことではないかと思うがどうか。

**A** (まちづくり課長) 平成26年度に国から、景気の影響を受けやすいため、実施しないという指導がっており、今後計画できないと考えている。

**まとめ** 現役のPTAとして活動している中、保護者から、住みやすく自分たちが生活しやすい校区にしたいという声が聞かれた。トップダウンだけではなく、住民や職員間のアイデアでお金をかけず、計画することが若い方に活気がつくと考えている。

質問した2点について、目的としては一緒であった。若い方が町行政に関して興味がないと町の発展は望めないと考えている。若い方が町の行政に関与できるようなまちづくりをするために、地域の方が地域で生まれ育っていくまちづくりを今後何らかの形として、町に取り入れていただきたい。今後も議会や担当課と協力し、早急に進めていきたい。



二小グラウンド



文教厚生常任委員長  
議会運営委員会委員

## 井下忠俊

### 井下「地域間に生じる差について」 町長「誰もが住んでよかったと思える町に」

大きな違いが出てきているが、その要因として何が考えられるか。

**Q** (まちづくり課長) 町営住宅として高久野団地はあるが、民間のアパートを含め住む場所が少ないのも一つの要因であると思われるなか、今後更なる定住対策等を考えていきたい。

**Q** たとえば、グリーンヒル二城のように、宅地造成、販売というような事は、今後二小校区内においても考えているのか。

**A** (まちづくり課長) 「宅地造成に対し、自治体として取り組む事は財政的負担が大きく好ましくない。」と国からの通達があったため、これからは民間との連携を、と思っている。

**Q** たとえば、どのようなかたちの連携を考えているのか。

**A** (まちづくり課長) 南関町においても高齢化が進んでいる現在、所有されている土地の管理方法などについても、相談や情報提供などを広く受け、民と官で共有しながら定住対策にも力を入れていけば、今後予想される児童数の減少にも歯止めが利いてくるのでは、と思っている。

**Q** さらなる地域間の差について、国道や県道すじは問題ないと思うが、そこから1～2本入り込んだ所では緊急車両などが入りづらい場所がある。これについてはどのように考えるか。

**A** (建設課長) 消防車の幅が1,89m、消防車が2,26mあるので、2,50m未満の町道に入るのはかなり難しいと思われ、そのような路線は町内には84路線ある。

最低でも4m以上に拡幅できればと思っているところではあるが、用地買収の関係上断念せざる得ないところがあるのも事実である。

**Q** このような場所と状況は建設課としては把握しているのか。また災害時においても必要な情報となるが、防災の観点から総務課としてはどうか。

**A** (建設課長) 緊急車両による進入が難しい道路については、南関町全域にわたり何力所もあるため、消防署において調査を行ってもらい、ゼンリンにその箇所を記入し緊急車両はその情報をもとに出動している。もちろん総務課も把握している。

**Q** ちなみに、道路改良の要望は年間どれくらいの数が増えているのか。

**A** (建設課長) 現在10路線ほどあがっており、年間1～2本の要望が総務課へ届いている状況である。

**Q** 最後に旧石井邸についての進捗状況を尋ねる。

**A** (教育課長) 登録文化財という指定に向け、国の文化庁と連絡を取り協議の段階であり、それにあわせて貴重な絵画・版画・美術品のリストを作成するため、美術品関係の確認作業中である。新年度においては、区長さん他地元の方々、関係課の職員、学識経験者の方達を委員とし、具体的な協議をしていく予定である。

**まとめ** 少子高齢化の中、どこの小学校においても多くの子ども達の声が聞こえてくるよう、人口増加に繋がる定住促進施策に向け、さらなる一步を踏み出してほしい。また、防災マップ作成も大事だが、その他にも防犯・防火・急病等の場合もある。南関町では何処に住んでも安心・安全が提供できるよう、せめて緊急車両に対応出来る道路整備を喫緊の課題として進めて貰いたい。旧石井邸については、何より地元の方達が納得できるよう慎重に協議、対応を進めていって貰いたい。



鶴地 「議会開催の改革を」  
町長 「議員定数、議会制度を含め検討したい」



議会運営委員会委員長  
文教厚生常任委員  
広報常任委員

鶴地 仁

**Q** 地方議員のなり手が減ってきており、町村議会のあり方が問われている。近年では、議員のなり手がなく、無投票になった自治体もある。なり手を確保する目的で、小規模な町村議会などを対象に新制度が研究されている。新たな議会制度として、少数での集中型、議員専門を目指し、議員報酬を専業で生活できる水準に引き上げる案と、議員の兼業兼職を条件付きで緩和し、報酬を引き下げ、平日夜間や土日を基本に議会開催するという案である。

南関町の議員定数は、昭和30年に26人であったが、漸減し平成18年に現在の12人となっている。今後も人口減少が続くので、会社員や自営業の人が議員になりやすくなるためには、平日夜間や土日の開催といった改革が必要ではないか。本町議会の傍聴者も極めて少ない状況にある。来年には地方自治法の改正があるかもしれないので、町と議会がしっかり議論していかねばならないのではないか。

**A (町長)** 議会傍聴者については、平成28年定例会4回で延べ58人、平成29年定例会4回で延べ37人であり、防災無線放送や広報などで知らせているが、昼間に時間が取れる方以外には、傍聴が少ないのが実状である。休日開催や夜間開催は、県内で実施している町村はなく、市では荒尾市が夜間議事を9月定例会中の一般質問で1日だけ取り組まれている。休日や夜間に開催すれば人権費や光熱費などの費用もかかるので、実施自治体の状況を見て判断していきたい。これからの人口減少を考えれば、議員定数、議員の制度等も含めて検討していく必要がある。

**Q** 傍聴が少ないのは町政に対する関心が薄いということであり、町民が町政に接する機会を増やしていくべきだ。対策を取らないと、ますます議会と町民が離れてしまう。小さな町では、条件緩和を進めるべきだ。サラリーマンが議員になれないでは、兼業、高齢者だけの議会となり、大事な意見が町に届かないということになる。

**A (町長)** 集中専門型、兼業型、両方の検討が必要かと思う。本町で議員を是非やりたいという思いを持った方が出てもらえるように検討していく必要がある。

**Q** 人口減少の中、議会も改革をしていくべきだ。実施率的にはまだ少ないが、夜間議会が平成17年に19団体、休日議会が31団体。平成27年に夜間議事は19団体だが、休日議会は51団体と増えている。将来、全日程を夜間や休日に開くことを視野に入れている村や夜間議会と休日議会の両方を実施している町もある。欧米では夜間議会や休日議会が当たり前になっている。町職員への影響、人件費、振替休日、夜間の場合の負担についてはどのように考えるか。

**A (総務課長)** 夜間に開催する場合は、管理職には時間外勤務手当はないが、待機している職員も当然いるかと思うので、こちらには措置をする必要がある。休日については、振替休日という対応ができる。

**まとめ** 今後の人口減少を考えると、議員の定数も考えなければならない。少数集中型、多数兼業での報酬引き下げ、土日や夜間議会の開催で町政に関心を持ってもらう、サラリーマンが議員になりやすいような対策等、執行部、議会揃って検討すべき時期に来ている。



議 場

## 議会日誌

### ■2～4月

- ・2月26日(月) 当選書授与式
- ・2月28日(水) 議員懇談会
- ・3月5日(月) 臨時議会  
各常任委員会
- ・3月7日(水) 全員協議会
- ・3月8日(木) 議会運営委員会
- ・3月12日(月)～16日(金) 3月定例議会
- ・3月27日(火) 広報常任委員会
- ・3月28日(水) 南関町加工品開発センター竣工式
- ・4月12日(木) 地方創生調査特別委員会
- ・4月19日(木) 全員協議会
- ・4月24日(火) 広報常任委員会



### ■年間スケジュール

定例議会 4回……3月・6月・9月・12月  
閉会中は、懸案事項を各常任委員会で調査  
研究します。他に全員協議会や臨時議会、  
陳情、請願に対する審査・視察・研修など  
を行います。

## 議会傍聴しませんか



3月定例議会の  
傍聴人数は、  
のべ10人でした

### 次回は、6月定例議会

- ・どなたでも傍聴できます。
- ・先着30人
- ・議会入口の傍聴人受付簿に、住所・氏名・年齢を記入します。

お問合せ先：議会事務局 ☎57-8508

## 募集!

### あなたも 登場しませんか

#### ■『生の声を聴くコーナー』 登壇者募集

- ・グループでの申し込み
- ・希望の対談テーマと共にご連絡ください

#### ■『あなたが考える、南関町の未来コーナー』

- ・南関町在住で、18才未満の方
- ・400文字程度の文章

#### お問合せ・申込先：

広報常任委員会 各委員へ または  
委員長(なかむら)☎090-5394-0233 へ



## 議会事務局のみなさん

こんにちは。議会事務局長の深浦正勝です。4月の人事異動で担当になりました福山尚樹です。今年は議会の改選によって新たなメンバーでのスタートとなりました。事務局も心機一転してよりよい議会運営に努めたいと思います。

よろしくお祈いします。



この号から新しく始まるコーナーです。広報委員会では、町民の皆さんからのさまざまな生の声を聴き、議員活動の活性化と住んでよかった町づくりの一助になればと考えています。今回は「子育て支援センター」で、一日中忙しく子育て真っ最中のママさんたちにインタビューしました。



当日は、14組のママさんたちが、子育て支援センターに見えていました。その中から5名の方達に、広報委員がインタビューしました。

このコーナーは、登場された方達の声であり、これ以外にもいろんなご意見があると捉えています。このコーナーを元に「こんなこともあるよ」「こうしたことも要望したい」など、「読んで頂いた方達の生の声」が議会にたくさん届くことを期待して、このコーナーを始めました。



普段の生活の中では、かなり目立って良いことしない限り目がいかないですね。



## 「小児科医の専門の先生が欲しいという声を聞きますが」

- 大牟田、玉名、荒尾に行ってます。小児科だけでなく、耳鼻科もないです。荒尾、玉名も大牟田も、同じ距離で行けるのは、まだいいですが、近くに欲しいです。



## 「困みに、夜の小児科はどこに連れて行かれますか？」

- その日当番の先生をネットで検索して、良さそうなところに行っています。



## 「南関にこんなものがあたらいいなと思う点をお聞かせ下さい。」

- 気軽に遊べる公園がもっと欲しいです。歩いていける距離で、最低でも校区に一つは欲しい。保育園は土日に入れない、大津山公園は階段の上り下りで危ないところがあるので、安全面の見直しをしてほしいです。



## 今回の「生の声を聴く」を終えて・・・

南関町の子育て支援が他の地域より評価が高く、ママさんグループの話題になっていることが判りました。ただ、支援内容がしっかり届くように、情報の伝達方法の強化も必要といった意見も聞かれました。

子育てには、こどもの夜間の預かり体制、小児科医の専門の先生、歩いて行ける公園の整備などが欲しい。

5人の子育てママさんからの声でした。貴重なご意見ありがとうございました。

広報常任委員会

# 子育てママさん & 広報委員



## 「日々の子育てで大変なことは？」

- 買い物、病院、、、車がないと困ります。
- 高校進学、スクールバスがあればいいけど、皆さん駅まで送り迎えされています。
- こどもの預かり体制を確保して欲しいです。病気、通夜・葬式など急用時に預かって欲しい時があります。



## 「核家族化で、一人での子育てが多くなっていますが、ストレスはありませんか？」

- 一人で子育てしていたら悩んでしまっただけでストレス溜りますね。幸い、主人の実家が近く子育てを手伝ってもらえるので、私はストレスが少ないほうです。
- 子供と散歩していると、ご近所のおじいちゃんたちが声をかけてくれるのでありがたいです。
- 保健センターのように集まる場があるとワイワイして楽しいです。癒されます。



## 「町の子育て支援は？」

- 補助金について他の地域の友達と話をする、南関町は多いのでありがたいです。家で子育てすると、在宅保育手当があるなど、子育て支援は南関町がいいですね。
- 町外から来たのですが、南関町の支援が良い話をして、友達が何人か引っ越してきました。



- 私も友達に「いいばい」って言いました（笑）
- 医療費の支援はどこもあるけど、保育料が半分返ってくるところってないですね。

## 「町ではいろんなことをしていますが、見えていますか？」

- 子育て支援など、もっと内容が届くようになってほしいと思います。チラシに書いてあっても見る暇がありません。
- いくら良いことを町がやっても、母親が知らない「なんであの時、教えてくれなかったの？」と町に対してマイナスなイメージを持たれると思います。
- 広報誌に載せても、見る世代と見ない世代があるので、もっと興味を持ってもらえるようにしてほしいです。移住してすぐだと、情報を見逃してしまうこともあります。
- 文字ばかりだと読み切らんです（笑）



## 「20～50代の選挙の投票率が低いが」

- 立候補者がどんな人が判らない。年齢層が高いので、おじいちゃん、おばあちゃんは選挙で盛り上がっていますけど（苦笑）
- 嫁いで来た人や移住してきた人は、名前を覚えるのに時間がかかっていたのかもしれない。



# あなたが考える、南関町の未来

南関町に住む18才未満の人たちに、町の未来を語ってもらうコーナーです。



おおのり ゆうき  
大法祐樹さん  
(南関中学校3年)

僕は、今の南関町で良いなと思っていることが二つあります。一つ目は、自然環境を活かした町づくりです。特に「バンブーフロンティア」事業は、日本でも唯一といえる先進的な取り組みで、南関町の自然を活かした、誇れる良い活動だと思います。二つ目は、子育て支援です。給食費の補助、医療費助成などなどもあるけれど、中学生の僕にとって教室の冷暖房完備は、快適な環境の中、落ち着いて授業に取り組めるのでとても有難いです。

でも「南関町の未来は？」と問われると心配になります。南関町も年々人口が減少し、高齢化の進み方が深刻です。だから「誰もが住みたいまちづくり」、「魅力あるまちづくり」の日本一を目指してもっと早く進めてほしいと思います。

そのため、大人と子どもが知恵を出し合い、協力して作り上げれば、みんなもずっとこの町に住み続けたいと思える、元気な町になると思います。

## 編集後記



今号から議会だよりを発行する役目を担いました。広報常任委員会は新人議員が就くのが慣例になっていますが、経験者の鶴地議員にオブザーバー的役割で助けて頂くことになり、4名の編集員で進めていきます。よろしくお願いします。まず私たちは、「町民の方がもっと気楽に手に取り、読んで頂ける、議員だより」を目指すことにしました。みなさんの声

を、そして評価をいただきながら、より好まれる冊子にしていきたいと考えています。まず2月の選挙で投票率が低かった20~50代の皆さんに読んで頂けるようにしたいとの思いで、デザインと記事内容を検討しました。新しい試みとして「生の声を聴く」と「あなたが考える、南関町の未来」の2つのコーナーを設けました。町民の方達に登場してもらい、声を聴き、議論の活性化とまちづくりへの一助になればと始めました。皆さんからのご意見、そして新たなアイデアをお待ちしております。

(中村)



### □ 発行責任者

議長 酒見 喬

### □ 編集(広報常任委員会)

委員長 中村 正雄  
委員 北原 浩一郎

副委員長 西田 恵介  
委員 鶴地 仁